

平成25年度研究科横断型教育プログラム（Aタイプ）授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科 開講型)	研究科名	公共政策大学 院	カテゴリー	社会科学総合科目 群	横断 区分	文理横断型		
授業科目名 (英訳)	現代規範理論 (Public Philosophy)		講義担当者 所属・氏名	法学研究科・ 教授・小野 紀明		開講 場所	総合研究2号館 公共第一教室		
配当 学年	専門職、 修士、 博士後期	単位 数	2単位	開講 期	前期	曜 時 限	金4限 (2:45~4:15)	授業 形態	講義
〔授業の概要・目的〕									
<p>本授業は、現代社会が直面する諸問題に関して、主として政治理論の領域において提出された多様な解答を考察することを目的とする。今日、象牙の塔に立て籠もり観想的な学問にとどまっていた従来の研究姿勢を反省して、哲学・倫理学・法哲学・公共経済学等の諸領域において、領域横断的にアクチュアルな課題に実践的に対応し、一定の処方箋を提示しようとする規範理論の構築が盛んになりつつある。政治理論も例外ではない。本授業では、このように他の学問領域と交錯しながら活発に展開されている現代政治理論の諸相を多面的に検討する。</p> <p>しかしながら、現代規範理論は、過去の思想的遺産とけっして無縁ではなく、むしろその延長線上に構想されている。また、思想・理論は、現実と切り離されたところから空中楼阁の如くに成立するわけではなく、常に直接的、間接的に当該時代状況と真摯に向き合うなかから生み出される。従って、本授業では現代規範理論と政治思想史の両者の知見を比較対照しながら考察することによって、両者の連続性を明らかにすると同時に、逆に現代社会の特殊性を浮き彫りにすることを目的とする。</p>									
【研究科横断型教育の概要・目的】									
<p>本授業科目は公共政策大学院の基本科目であるが、現代社会においては社会正義に関する知識は公共的な職務に就く者のみならず、研究者を含めて理系・文系を問わずあらゆる職務・職業に従事する者にとって不可欠なものになりつつある。この授業では、正義に関する思想・哲学についての素養がなくても理解できる入門的な知識を提供することが目的である。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>本授業は、以下の2部構成からなる。</p> <p>1 功利主義批判の諸相(第1章～第7章)</p> <p>現代規範理論の最大のトピックは、従来、リベラリズムの中核をなしてきた功利主義の批判である。</p> <p>ここでは、現代国家の歴史的成立過程と現代国家に今なお正統性を与えている功利主義を概観した後で、功利主義批判の狼煙をあげた ロールズの『正義論』(1971年)、そしてそのロールズを批判する多様な現代規範理論について解説する。</p> <p>具体的には、1現代国家の成立過程；2功利主義；3ロールズのリベラリズム；4コミュニタリアニズム；5多文化主義；6共和主義；7ポストモダン政治理論</p> <p>2 現代規範理論の諸問題(第8章～第12章)</p> <p>第2部では、現代規範理論の諸問題の中から、「実践」としての政治、法と「熟慮」の政治、リベラリズムとファンズム、政治と同情、政治的徳の独自性など、とりわけ政治を考える上で重要と思われるトピックをとりあげる。</p> <p>具体的には、8「観想」と「実践」；9市民と「熟慮」；10「他者」との距離；11言葉と暴力；12心情倫理と責任倫理</p>									
〔履修要件〕									
特になし									
〔成績評価の方法・基準〕									
受講態度も加味しつつ、基本的には学期末のレポートによる。									
〔教科書〕									
特にないが、随時資料を配付する。									
〔参考書等〕									
<p>小野紀明『政治理論の現在－思想史と理論のあいだ』(世界思想社、2005年)</p> <p>川崎修・杉田敦編『現代政治理論』(有斐閣アルマ)</p> <p>山岡龍一・齋藤純一『公共哲学』(放送大学大学院教材)</p>									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
特になし									